日伯新聞
S. P. Nippaku Shimbun
伯國聖市マエストロ・カルヂン街二〇九
ゾエルダイロ街（二五八）
發行所日伯新聞社
本紙定價年九ミル
外國郵税共百ミル

チンタ会社
Pelikan
GUNTHER WAGNER LTD.
日本人總代理店 日伯社

國府死線に呻く

漢口、香港間の大動脈 我が空爆に完全切斷!

今や敵の水路が命の綱

（上海二十日同盟）我が海軍航空隊の連日に亘る爆撃により粵漢鐵道銀盧拗、軍田、源潭なども徹底的に爆撃され重要鐵橋も各處で橋脚を破壞されたゝめ過去一週間以上列車不通に陷つてるがこの爲軍用品貨物などの滯貨甚だしく國民政府はこれが處理に腦み拔いた擧句時間的損害を顧ず廣東、長沙間を水路により運搬することゝなつた、然し現在兩地間の水路は貨物を滿載せる大小ジャンクが輻輳し加ふるにこの水路もこゝ一二ケ月中には減水による航行不能が豫想されるので國民政府の焦燥煩悶は益々加はりつゝあり關係當局に粵漢鐵路の急速なる修復を嚴命したといはれる

山西省奪還を企つ 頑敵、根こそぎ覆滅

皇軍勇躍怒濤の猛進

【北京十九日同盟】山西南部黄河北岸地區に有力なる部隊を止め堅壘を構築しつゝあつた敵は所謂山西奪還を實現するにあつたが、我が諸谷、岩切、森本以下各部隊の力攻はこの企圖を根底から覆へし黄河北岸に於ける敵根據地を一掃すると共に逆に洛陽、西安及び西北一帶に大脅威を與へるに至つた、程潛を總指揮とする敵は鄭州、潼關間の黄河南岸一帶及び洛陽、西安に至る間に必死の防備陣を張るの已むなきに至り隴海線西段に於ける敵は目下頻に移動中である、而してその配備は大體次の如くである

鄭州第百四十一、百四十二新編第三十五、中央軍第三十四の各師、偃師附近李鐵軍の率ゆる中央軍第一、第三十四、三十六、七十八、百六の各師、洛陽附近部子擧の率ゆる中央軍第四十五百十六兩師及びその南方に蠡濟時の率ゆる第四十、中央軍第五十一、五十八の各師、陝州附近李家鈺の率ゆる中央軍第八百四、百七十八各師、潼關附近曾萬鐘の率ゆる第七、第十二の兩師渭南附近、茂恩の率ゆる六十四、六十五の兩師、西安附近孫蔚如第十七師、西安附近には楊西軍、寧河は馬鴻賓軍が配置されてる

右の如く北部戰線に於ける敵兵力は數十萬に達してゐるが支那軍は結局漢口陷落を期として全面的潰亂狀態に陷るは必然であり、その大局的破滅の日は刻々迫りつゝある

精鋭部隊の急進

敵を黄河々畔に壓縮

【北京十九日同盟】十七日清攻突破し南方に向ひ、急進擊州を占領した我部隊は十八日朝來黄河の線を目指して凱の如く進擊する一方、解縣より進擊した部隊は十七日朝來解縣南方四里陌上村の堅陣を猛面に於ける敵大部隊は刻々と殲滅の運命に迫られてゐる

【北京二十日同盟】山西南部殘敵掃蕩中の我が軍は十八日午後五時稻南鎮を占領した、稻南鎮は黄河南岸驛賓對岸の地點にあるため渡河退却を許されぬ敵は死者狂ひで防戰したが我が軍の猛攻に潰滅的打擊を受けた

惡天候を冒し 又も南支大爆撃

【香港廿日同盟】海軍航空部隊は廿日午前午後二回に亘つて廣東及び粵漢鐵道銀盧拗、軍田、源潭各地を爆撃した、この日廣東地方は天候不良のため我が空襲部隊の來襲に氣付かず爆撃開始まで警報も發せられず各軍事施設共多大の損害を受け全く我が荒鷲の果敢な擊攻の下に蹂躙された

國府、孤立化を惧れ 西南諸省に交通網

先づ自動車路開設に躍起

【香港廿日同盟】重慶來電によれば重慶遁入後の國府は漢口陷落せば全く孤立狀態に陷るので、目下重慶と西南諸省間との交通を殊に自動車道路の開設に躍起の努力を拂ひつゝあるが、その進捗狀態概要は次の如くであるとの

一、川相路（四川、湖南）去る四日から工事を開始し目下四千人の土工を使役して六割を完成、十月から全通の豫定

二、川岳路（四川、湖北）成都より楡陽、渠縣を經て萬縣に至る全長六百四十餘支里、去る二月工事開始本月中に完成の筈

三、成澎路（四川省内）成都から西北方澎縣に至るもの昨年冬開始、來る十月完成の豫定

四、川滇路（四川、雲南）先づその第一區工事たる四川省南部省境に近い隆昌から貴州省西部省境の赤水まで開始して本月完成の豫定であり、赤水から同じく貴州省々境の威寧に至る區間は五月開始しこれも本月末完成、右完成後雲南省昆明に至るものを繼續する

蔣の密令を受け 廣東省で抗日訓練

南方各省も俄然活潑化

【香港十九日同盟】我漢口作戰の進展に伴ひ、蔣介石の抗日宣傳戰は南方各省に於て急激に活潑化しつゝあるが、中央色最も濃厚な廣東省政府では蔣の密令を受け戰區司令部と省當部が連絡して全省民衆を總動員し近く抗日軍事戰時訓練を開始することゝなつた

全く泥繩式な 西康省開發

【香港廿日同盟】重慶來電によれば西康省建設委員會では西康省の積極的開發工作に乘出すため西康科學調査團を組織し近く大規模な廣況な調査に着手せしめる旨發表した、右は四川省が愈々國府の最後の逃避所となつたゝめ隣接西康の產業開發に着目したものであるが全く泥繩式の紙上プランに過ぎざること明である

在滿邦字紙 用紙を節約

【新京十九日同盟】在滿日本字新聞各紙は用紙節約の趣旨から來る九月四日以降日本内地に倣つて全滿一齊に日曜夕刊を廢止することに決定した

迷信と懷疑を一蹴 鄕村教育の新計畫

明朗北支建設に拍車

【北京十九日同盟】今回臨時政府教育部では明朗北支建設の基礎ともいふべき小學教育の全般的普及並びに北支各省に於ける農村文化の振興を目標に鄕村教育十ケ年計畫を樹立すると同時に

一、鄕村文化の傳波

一、農村知識の振興

一、識字運動の綱領

の三綱目を掲げ大規模なる文化運動を興し迷信と懷疑に埋れた北支農村の明朗を圖ることゝなつた、その計畫要綱は左の如きものである

一、河北省では毎年模範小學校廿校を創設し、初年度は國庫負擔とし次年度よりは商工所負擔とすること（初年度經費百九萬元）

一、河南、山東、山西の各省では治安工作進捗と平行して河北省と同一歩調をとらしめる

一、模範小學校設立に伴ひ夜學校の設置、農業補習班、婦女識字班、商業班、衛生清潔運動班、巡回醫療班、巡回圖書館を新設し文化運動の徹底を期する

極東新事態に對應

生產擴充四ケ年計畫

【東京廿日同盟】日滿支三國の產業計畫を綜合調整して長期戰下の經濟體制を整備すべき生產擴充四ケ年計畫案については、去る七月企畫院の成果を見たので企畫院では從來同案の細目に關し、滿洲國、北支當局並に關係各省事務當局その他民間產業の當業者と數字的に鋭意折衝を行つてゐるが、同案の審議は著しく進渉してゐるので、九月中には全部の審議終り同月中に閣議に附議正式決定の運びとなるものと見られる、同案は石炭、石油、鐵、金、非鐵金屬等の各原料品別に四ケ年に亘る飛躍的な生產擴充をなさんとするもので、極東の新事態に對應し、重點を重工業部門の擴充に置き滿洲、北支の資源をも組み合せた綜合計畫であつて巨額な資金計畫も同時に立案せられてゐる

非常識極まる英側 我方に不當な抗議

日章旗凌辱事件で係爭

【東京二十日同盟】去る十七日青島で發生した英國水兵の帝國々旗凌辱事件に對し英國側では我が官憲が英國水兵を不法引致したと不當な抗議を持ち出し日英兩領事館に不愉快な係爭が行はれてゐるといふ事件の詳報が在青島大鷹領事から二十日外務省に報告あつた、即ち

去る十七日午前一時廣島ホテル入口の國旗を綾治中の英國軍艦デューコイ號の乘組水兵ジーエルトンが理由なく旗竿と一緒に引き倒し踏む蹴るの暴行を敢てし更に附近にゐた支那人數名を呼び寄せ一緒に泥足で踏ませた、これをホテル内から目擊した某憲兵軍曹がホテルの日本人と共に飛び出しエルトンの暴行を止めその不法を難詰したところ、附近のキャバレー・キスメツトで飲酒してゐた英國水兵のデンチー號の乘組のイリアム・ドンフアームが數名の泥醉した仲間と共に逃げやうとしたが果さず、我が方は街頭での論爭は穩でないので彼等と共にキスメツトに入りエルトンの謝罪を迫ると エルトンは紙に鉛筆で謝罪をしたゝめドンフアームも事實を承認すると署名した、急報により領事館警察の小柳巡査部長が駈け付けた時にはエルトンは既に逃走後で已むなくドンフアームとその友人一名に任意出頭を求め、領事館に同行取調べたが、泥醉してゐて要領を得ない、そのうちエルトンの軍艦に乘らんとするところを本人の納得を得て引致されて來たので取調べると前記犯行を全部確認したので、三者共直ちに英國領事館に引渡したこれに對して英國側では逆に英水兵の不法引致だと意氣捲いてゐるのでその非常識振りは沙汰の限りである

敵の捕虜數十名 佛工部局で大暴れ

我方嚴重事態を監視

【上海十九日同盟】十九日午後七時頃佛蘭西租界ラウーロの佛租界工部局支那人捕虜收容所に於て怒呼の際突如數十敗殘兵で八・一三記念日に商收容所の所長に對して襲ひかゝらんとしたので、警備中のフランス騎馬兵は拳銃を亂射し一名を射殺した、右捕虜は上海事變當時南市に立籠り最後まで我軍に抵抗せんとしたが遂に支へ切れず佛租界に逃入し後して秘かに脫走の機を狙つてゐたものと見られるが、我方に於ては嚴重事態を監視してゐる

中央の建設工作は 全國的に擴大せよ

汪精衛時局談一くさり

【香港二十日同盟】重慶來電によれば國民黨副總裁汪精衛は十九日同地支那新聞記者との會見に於て時局に關し次の如く語つた

中央は目下西南の建設工作に全力を盡してゐるがこれは須く全國的であらねばならぬ、一省のみが自給自足が出來てもなにもならない、全國的に擴大せねばならぬ第二次國民參政會は來る十月十日の双十節を期して召集する積りだ

蒙古包とラマ廟の十日間（4）

角力と蒙古追分 意外！ラマ廟に日本人

イシニマ夫婦は、毎日いろ〳〵と歡待はしてくれるが、包生活の不潔さには閉口した食器でも衣類でも洗ふといふことを知らない、それに三度々々うどんのやうなものばかり食つて山羊の乳の入つた茶ばかりのんでゐると、蕁麻疹にかゝつたと見えてから次中が痒くなる、野茶といへば草原に針のやうな芽を吹いてゐる韮の一種をうどんの藥味にするだけである

包を　訪ねてくるものはほとんどラマ僧に限られてゐる、或る日その一人がこゝから三里ばかり離れたところにあるラマ廟につでもブラ〳〵してゐるのでの廟に行つてみたいといふを敎へてくれた、僕がぜひその廟に行つてみたいといふと即座に承諾して、今からすぐ出かけてもいゝといふ、蒙古では女の方は炊事や牛糞拾ひで相當繁忙しさうであるが、男はラマ僧に限られてゐる、或る日その一人がこゝから三里ばかりの

英國の在支權益

武漢陷落が目焦の間に迫り國民政府の地方政權への轉落確定的事實と見られるに至ると共に、支那に權益を有する列國はやうやく眞劍に懸ぎ出して來たが、就中特に關係深い英國はクレーギー駐日大使をして、揚子江の自由航行、上海埠頭の荷揚げ、英資本系鐵道管理、青島の英艦自由入港等我が占領區域内における英國の在支權益に關する百數十件の懸案解決のため我が外務省に交渉せしめてをると傳へられ、又十九日倫敦電報によれば吉田駐英大使は同日英外務省を訪問、外相代理と支那事變を中心とする日英關係調整に關し懇談を遂げた模様である

事實日英關係は最近著しく疎隔を來したようである、それは英國側からすれば我が占領區域内に於ける同國の在支權益を獨自の見地から管理しようとすることに源を發し、日本側からすれば英國が公然或は背後から國民政府に對し武器軍需品を支給し或は財政的援助をなしをる點を遺憾とするに在り、双方それ〳〵理由存するのである、併しながら英國の態度は故意か或は知らずしてか今次事變に對する日本の態度を曲解してをる、即ち日本が去一月蔣政權滅を決意したのは、蔣政權が藍聯と組んで支那の赤化を容認しつつその地位の安泰を圖らんとするに對し、英大なる犠牲を覚悟の上これが防止に衝らんとするに出で、彼の伊太利の東阿攻略などとは全然その撰を異にし、眞に極東平和の爲の聖戰である、然るに英國は之を單なる大陸侵略と解し却つて我方を平和の攪亂者視し對支援助を繼續しをるものゝ如くである

英首相は曾て公開の席上に於て、交戰國に對處する途は何故に戰闘行爲に訴えざるべからざりしか、その由來を調査の上正當な理由ある國の爲に援助する旨聲明した、併し乍らこれを日支事變に徴すると、英國は恰も蔣介石に正當の理由ありと認めてゐる如くである、十九日タイムス紙は吉田駐英大使の英外務省訪問並に東京に於ける宇垣クレーギー會見を目し、日本は蔣政權の長期抵抗により財政經濟的に窮乏した結果英米の財的援助を必要とし、其目的達成のため國交調整を急いでゐるのだとし、併しながら英米は日本の對支態度に憤らず民間をして對日財政援助を差控へるよう内證を含めてあるといつてゐるのも、全く英國の在支權益が皇軍の占領によつて躍動されはせぬかを懸念した上の率制的論議と受取れるのである

蔣政權の潰滅が蔣政權によつて獲得した各國權益の將來に不安を與へることは無理なしとするも、すでに北京臨時政府并に南京維新政府は成立由は存しない筈である、而もの當初に於て、列國の在支既得權益を尊重することを公約し、又日本政府としても從來幾たびか第三國權益尊重を聲明してをり、列國にして冷靜に判斷すれば何ら危惧する理由は存しない筈である、而も英國が率先敢て斯かる言辭を弄する所以のものは、その援蔣政策に對する日本の思惑を懸念し自ら省みて世俗たるものあるに因るや瞭かである、從つて問題の解決は英國が我が聖戰の銘意を了解して、速かにその援蔣政策を清算し、日本と提携、新支那建設に努力するに在るのである

又出た日支調停説

蔣を即時下野せしめ 代つて汪精衛が登場

今度は伊太利から橋渡し

【倫敦十九日UP】本日十九日の紙上に「英國の苦情」と題する社説を掲げ目下日英兩國間で問題となつてゐる案件と稱し虹口、楊樹浦地區への立入問題、揚子江航行禁止、青島江浚渫局の機能停止などの問題など列擧した後、日本政府が飽くもこれ等懸案中の一つでも解決するよう希望する旨を述べた、廿日の東京日日紙は日英會談に關し「全般的會談の基調」と題し次の如く英國の反省を促してゐる

第三國權益尊重は我國の堅持する根本方針であり、英國側の要求が適正である限り我國に於てこれを容認するに躊躇するものでないが問題は歴然の大部分が事實上戰闘區域に存在すると云ふことである、日本と蔣政權との間には現實に全面的戰爭が繼續されてをり、我領土領地帶はすべてこの蔣政權撃滅を期する軍事行動のため絶對にその自由行使權が留保されねばならない、而して英國側要求の趣旨を具現するためには、支那の全面的平靜といふことが前提條件となるのである、日本に關する限りこの全面的平靜とは抗日蔣政權の潰滅を意味する、英國と雖も事變の經過を冷靜に檢討するならばこの結論に到達する筈である、之を知つてか知らないでか、英國は極めて露骨な援蔣政策に終始して來た、つまり平靜回復の時期を自ら遅延させて來た、今更のように日英國交調整が問題になり而もそれが簡單に實現しないのは英國が權益擁護を急ぐ余り、東亞に於て敵すべからざるものを殊更敵とし、援助すべからざるものを援助した結果である、この際最も必要なるは英國が東亞の現勢に鑑み從來の援蔣政策を清算することだ

【倫敦十九日同盟】タイムス紙は十九日の紙上に「英國の苦情と日本」と題する社説を掲げ目下日英兩國間で問題となつてゐる案件と稱し虹口、楊樹浦地區への立入問題、揚子江航行禁止、青島江浚渫局の機能停止などの問題など列擧した後、日本政府が飽くもこれ等懸案中の一つでも解決するよう希望する旨を述べた、廿日の東京日日紙は日英會談に關し「全般的會談の基調」と題し次の如く英國の反省を促してゐる

第三國權益尊重は我國の堅持する根本方針であり、英國側の要求が適正である限り我國に於てこれを容認するに躊躇するものでないが問題は歴然の大部分が事實上戰闘區域に存在すると云ふことである、日本と蔣政權との間には現實に全面的戰爭が繼續されてをり、我領土領地帶はすべてこの蔣政權撃滅を期する軍事行動のため絶對にその自由行使權が留保されねばならない、而して英國側要求の趣旨を具現するためには、支那の全面的平靜といふことが前提條件となるのである、日本に關する限りこの全面的平靜とは抗日蔣政權の潰滅を意味する、英國と雖も事變の經過を冷靜に檢討するならばこの結論に到達する筈である、之を知つてか知らないでか、英國は極めて露骨な援蔣政策に終始して來た、つまり平靜回復の時期を自ら遅延させて來た、今更のように日英國交調整が問題になり而もそれが簡單に實現しないのは英國が權益擁護を急ぐ余り、東亞に於て敵すべからざるものを殊更敵とし、援助すべからざるものを援助した結果である、この際最も必要なるは英國が東亞の現勢に鑑み從來の援蔣政策を清算することだ

英國の苦情と日本

對支援助撤回せよ

片や東日、片やタイムス

蔣と腐れ縁續け乍ら

虫の好い言ひ分

東朝、英をたしなむ

【東京二十日同盟】東京朝日は日英會談に關し社説を掲げ次のように論じてゐる

日本からすれば支那を味方として眼に余る援助をなして來たものに對して嚴正中立を守れる公平の第三者同様その權益を尊重すべき理由があるかどうか公平な第三者の蒙つた損害と雖も日支何れが賠償の責任を負ふべきかは問題である、英國の權益中責任を以て尊重擁護しなければならぬものが幾干あるか、英國は個々の權益に就ての利權を先づ擁護して徐に日英關係を調整しようとしてるようだが、英國が蔣政權を援助してるため今日の結果を招いたので、本來ならばこの援助を打ち切らぬうちに日本は英國と交渉し個々の問題を解決する理由はない、要は根本問題の解決だ、これはいふまでもなく東亞新事態の認識だ、飽迄蔣政權と腐れ縁を續け乍らそのために蒙つた權益の擁護に就て獨り外交々渉を急がうとしてもそれは余り虫がよくないか

テモ恐しい邪推

支那、英を逆恨み

駐英支那大使言懸り

【倫敦十九日同盟】駐英支那大使郭泰祺は十九日英國外務省を訪問、東京に於ける宇垣クレーギー會談に關聯し、東京よりの諸情報によれば日本は英國が日本に對し支那に於ける一定の自由活動容認を條件に、英國權益容認の取極めを加へすそのの健使用出來ることで、同社はこの方法によつて最近發見された埋藏量三千萬噸と稱せられる滿洲寧夏産砂鐵國策に邁進すべく勢込んでる

日英論戰

東寶スター 岡譲二出征

【東京廿日同盟】東寶の人氣スター岡譲二は今度名譽の召集を受け砲兵少尉として勇躍戰線へ向ふことゝなつた

ヒトラー青年團

靈峯富士に驚嘆

山中湖畔にキャンプ

【富士山麓山中發廿日同盟】青官を伴つた荒木文相が鈴木山中湖畔旭ケ岡キャンプ村に入つたヒトラー・ユーゲント一行三十一名は入場式後六張の天幕のテントに旅裝を解いて輕快な旅裝に變る、この頃富士山はかゝつた雲は晴れ靈峰はその雄大な全貌をくつきりと描き出した、眼の邊り見るその胸の底から呼び出し右手を高く富士に上げてたゞ讃嘆するばかり、やがて夕闇が四邊をこめる六時半頃一行は板テーブルに用意された交驩會のキャンプ料理に舌鼓を打ちつゝ樂しい晩餐をとつた、やがて一行三十一名は入場式後六張の天幕のテントに旅裝を解いて輕快な旅裝に變る、この頃富士山はかゝつた雲は晴れ靈峰はその雄大な全貌をくつきりと描き出した、眼の邊り見るその胸の底から呼び出し右手を高く富士に上げてたゞ讃嘆するばかり、やがて夕闇が四邊をこめる六時半頃一行は板テーブルに用意された交驩會のキャンプ料理に舌鼓を打ちつゝ樂しい晩餐をとつた、やがて同八時旧中社會局長、菅原秘書官を伴つた荒木文相が鈴木一行を入場式後六張の天幕のテントに旅裝を解いて輕快な旅裝に變る、この頃富士山はかゝつた雲は晴れ靈峰はその雄大な全貌をくつきりと描き出した、眼の邊り見るその胸の底から呼び出し右手を高く富士に上げてたゞ讃嘆するばかり、やがて夕闇が四邊をこめる六時半頃一行は板テーブルに用意された交驩會のキャンプ料理に舌鼓を打ちつゝ樂しい晩餐をとつた、やがて同八時旧中社會局長、菅原秘書官を伴つた荒木文相が鈴木一行を入場式後六張の天幕のテントに旅裝を解いて輕快な旅裝に變る、この頃富士山はかゝつた雲は晴れ靈峰はその雄大な全貌をくつきりと描き出した、眼の邊り見るその胸の底から呼び出し右手を高く富士に上げてたゞ讃嘆するばかり、やがて夕闇が四邊をこめる六時半頃一行は板テーブルに用意された交驩會のキャンプ料理に舌鼓を打ちつゝ樂しい晩餐をとつた、やがて

聯觀態度を一擲

日華實業協會起つ

【東京廿日同盟】事變發生以來靜觀的態度を堅持して來た日華實業協會では、支那側の要請に呼應して日支經濟關係の回復調整を圖るため愈よ積極的活動を開始することに決したが、これが準備のため近く東京に幹事會を招集、右に關する根本的方針を協議することゝなつた、これが第一着手としては一昨年九月請日支那經濟使節團の來朝を機に設立された駐日貿易協會（東京並に上海に事務所を置く）が事變によりその機能を停止されてゐるのを常態に復し活動を開始

日鐵お手柄

砂鐵の精錬に成功

【東京廿日同盟】日鐵では砂鐵を原料とする鉄鋼法に關し昨年三月以來研究中のところ今回北海道産砂鐵の單獨精錬並にこれに普通の鐵石五十パーセント混入の精錬をも何ら支障を來さず見事成功し既に五千噸の砂鐵による製品を得て日鐵獨特の砂鐵による製鐵法に確信を得るに至つた、右方法の特徴は殆んど從來の熔鑛鑪に變革を加へずその健使用出來ることで、同社はこの方法によつて最近發見された埋藏量三千萬噸と稱せられる滿洲寧夏産砂鐵國策に邁進すべく勢込んでる

新着圖書案内

書籍名	著者	定價
獅國を撃つ	武藤貞一	三、五〇〇
同	同	九、〇〇〇
英國の全貌	石丸藤太	一四、四〇〇
戰火に立つ	松島慶三	二、一〇〇
敵機來らば	高橋常吉	一〇、〇〇〇
第二次世界大戰	中島芳男	六、〇〇〇
戰爭と平和	室伏高信	三、五〇〇
極東はどうなる	國際情報研究會	七、五〇〇
支那の全貌	竹内夏積	三、五〇〇
支那の男と女	後藤朝太郎	二、七〇〇
赤軍	三島康夫	二、一〇〇
ソ聯は今後どう動くか	久野豊彦	二、〇〇〇
國民の基礎知識	内外問題調査會	七、五〇〇
軍人と政治	柳沼七郎	六、〇〇〇
陸軍畫報	中山正男	五、〇〇〇
防空讀本	大場彌平	二、一〇〇
戰禍の北支上海を行く	吉屋信子	九、〇〇〇
日支事變と次の日〇戰爭	神田計造	一四、〇〇〇
牛處女妻	小島政二郎	一四、四〇〇
バラならば	同	一四、四〇〇
母子草の灯	鶴見祐輔	八、〇〇〇
淺草の道	濱本浩	一、〇〇〇
新菊池寛	同	一、〇〇〇
新珠華	同	一、〇〇〇
受難	アンドレ・ジイド	三、五〇〇
田園交響樂	吉田絃二郎	一〇、八〇〇
心より心へ	ドストエフスキイ	一四、〇〇〇
性に眼覺める頃	寶生犀星	四、五〇〇
永遠の夫	同	四、五〇〇
阿部一族	森鷗外	二、五〇〇
若き日の悩み	藤森成吉	四、〇〇〇
心の青空	小島政二郎	七、〇〇〇
宮本武藏（地水の卷）	吉川英治	一、六〇〇
同（水火の卷）	同	一、六〇〇
同（風の卷）	同	一、六〇〇
丸の内夜話	奈良豊吉	六、〇〇〇
青春の記	芹澤寛	七、五〇〇
夢を孕む女	山田一夫	五、〇〇〇
地殼を破つて	賀川豊彦	一〇、〇〇〇
青年及び壯年（上、下）	島崎藤村	各一、七〇〇
關口彌太郎少	講談社	八、〇〇〇
戸澤白雲齋	同	八、〇〇〇
三家三勇士	同	八、〇〇〇
紀國屋文左衛門（用	同	八、〇〇〇
松平長七郎	同	九、〇〇〇
少年滿洲讀本	長與善郎	七、〇〇〇
忠勇報告美談	木村小舟	三、〇〇〇
忠烈日本魂	小西武夫	四、〇〇〇
愛國忠勇美談	進藤泡影	七、〇〇〇
日の丸荒鷲隊	川上水夫	二、〇〇〇
ほまれの日章旗	小林五郎	二、〇〇〇
激戰勇士の花	大和櫻風	五、〇〇〇
人類への宣言	賀川豊彦	五、〇〇〇
生命宗教と生命藝術	同	六、〇〇〇
イエスと自然の默示	同	六、〇〇〇
神による開放	井上如眞	二、〇〇〇
人生最後の勝利	井上如眞	二、〇〇〇
伸びゆく青年	生島隆一	九、〇〇〇
青年立志の礎	同	一〇、〇〇〇
正しき人の道	同	一、六〇〇
蘇峰自傳	德富猪一郎	七、〇〇〇
英雄崇拜論	トマス・カーライル	六、〇〇〇
明治大帝御製日訓	高橋成年謹	六、〇〇〇
偉人を語る	大久保康夫	一、七〇〇
日日の祈り	松本雲舟	五、〇〇〇

書籍名	著者	定價
現代青年道修養讀本	吉川英治	三、〇〇〇
近代日本偉人の青年時代	佐々木惠亮	五、〇〇〇
ニイチェ人生哲學	大洋社	九、〇〇〇
上に立つ人の行き方	伊福部隆	一〇、〇〇〇
人の行き方	大木陽堂	九、〇〇〇
世界の顔	前波仲子	一四、四〇〇
人生讀本	鳩山一郎	三、〇〇〇
新生活の書	トルストイ	三、〇〇〇
心の王國	澤田謙	五、〇〇〇
ゲエテ研究（ブランデス）	飯田豊二	三、〇〇〇
土の聖者	栗原佑譯	三、五〇〇
文學の道	芹澤寛	九、〇〇〇
熱海閑談錄	藤山雷太	六、三〇〇
蕪村夢物語（冬の部）	木村架空	三、〇〇〇
第二の日	エレンブルグ	九、〇〇〇
夫婦讀本	平山蘆江	六、〇〇〇
瀬戸英一情話選集		九、〇〇〇
流轉の書	武林無想庵	六、〇〇〇
無憂華	九條武子	二、〇〇〇
次代の廊	清安部磯雄	三、六〇〇
奥の細道の心	荻原井泉水	三、五〇〇
プレテクスト（評論）	アンドレ・ジイド	三、五〇〇
アンシグンス（同）	同	三、五〇〇
日記抄	同	三、五〇〇
女の學校（小説）	同	三、五〇〇
窄き門（同）	同	三、五〇〇
田園交響樂（同）	同	三、五〇〇
一粒の麥もし死なずば	同	三、五〇〇
愛の試み（劇散文）	同	三、五〇〇
曁金づくり（小説）	同	三、五〇〇
コンゴ紀行	同	三、五〇〇
幽靈塔	江戸川亂歩	三、五〇〇
緣衣の鬼	同	三、五〇〇
就眠儀式	木々高太郎	三、五〇〇
夜の鷲	同	三、五〇〇
光蟲	横溝正史	三、五〇〇
情痴犯罪捕物帖	高井壯吉	三、五〇〇
快奇茶話	森田富義	三、五〇〇
二重人格の女	中村古峽	三、五〇〇
妻なき幻影	モリス・ルブラン	三、五〇〇
酒倉の秘密	アンソニイ・ボオ	三、五〇〇
惡夢	同	三、五〇〇
戰慄の聲	安藤一郎	三、五〇〇
城の囚人	同	三、五〇〇
壁上の遺書	モリス・ルブラン	三、五〇〇
奇巖城の秘密	同	三、五〇〇
死を宣告された男	同	三、五〇〇
紺色ダイヤ事件	同	三、五〇〇
怪盜士	同	三、五〇〇
商品讀本	寶新聞社	三、五〇〇
商業簿記の知識	清水一良	三、五〇〇
數學全書	山川清	三、五〇〇
算術問題の新らしい解方	武田建清	三、五〇〇
算術學び方解方	文理研究會	三、五〇〇
初等解析幾何學	浪本千代次	三、五〇〇
くわしい代數學初步	藤森良藏	三、五〇〇
代數學考へ方	福原宅治	三、五〇〇
運動競技の見方聞方	春日俊吉	三、五〇〇
外國映畫名鑑	新映畫社	三、五〇〇
極東に於ける綿業		三、五〇〇
事物起源大辭典	清教社	三、五〇〇
西洋倫理學史	市川一郎	三、五〇〇
歌の正しい作り方	由利貞三	三、五〇〇
新歲時記	高濱虛子	三、五〇〇
戀愛詩集	ローレンス	六、〇〇〇
古今詩吟・名作集	皇國詩吟研究會	四、〇〇〇
詩謠讀本	西條八十	五、三〇〇
少年愛國詩集	同	七、〇〇〇
一茶俳句研究	黑澤隆信	六、〇〇〇
一茶と良寛と芭蕉	相馬御風	六、〇〇〇
忍術極意秘傳書	伊藤銀月	九、〇〇〇

書籍名	著者	定價
新術仙掌療法	柿坂茂	七、〇〇〇
隨筆醫者の黑燒	高野六郎	三、〇〇〇
避姙姙娠調節の實際	澤田順次郎	七、五〇〇
男女性典	濱本繁	一六、〇〇〇
實際的看護の秘訣	築田多吉	三〇、〇〇〇
性庭療法	山田司郎	七、〇〇〇
家庭醫學研究會	家庭醫學研究會	六、三〇〇
生理學なぜ、何故ならば	緑林	一六、〇〇〇
最新書翰文大成	文章社	九、〇〇〇
書翰文教本	井澤水葉	一、〇〇〇
文章の作り方と文例	金子蕙園	三、〇〇〇
作文講義及文範	大町桂月	八、四〇〇
ペン字高速度上達帖	石川雅山	一〇、〇〇〇
改つた手紙と挨拶	畑翠芳	一〇、〇〇〇
演說式辭寶典	篠原豊	九、〇〇〇
電氣機械學問答	東京工業研究會	九、〇〇〇
製圖設計法	湯川巖	八、〇〇〇
化學工業品製造法	島村誠一	七、一〇〇
世界科學發明物語	松平道夫	九、〇〇〇
科學文明の驚異		七、〇〇〇
ラヂオ部分品の研究	古澤匡一郎	六、〇〇〇
ブラジル語獨習書	中島文重	五、〇〇〇
初等ブラジル語會話獨習	小八木正輝	一〇、〇〇〇
標準ブラジル語	友田金三	八、〇〇〇
英文法辭典	水上齊	七、五〇〇
標準フランス語講座	上、中、下	三、〇〇〇
國漢外語辭典	高野辰之	九、〇〇〇
現代教育の革新	荒芳德	八、〇〇〇
新式六法全書	加島謙次	三、〇〇〇
新辭典	林藤村作	三、〇〇〇
最新辭典	中山久四郎	三、〇〇〇
範辭典	齋藤倬	三、〇〇〇
いろは新辭典	大町桂月	九、〇〇〇
機上辭典	高野辰之	三、〇〇〇
用辭典	中山久四郎	三、〇〇〇
和英新辭典	藤薫	三、〇〇〇
英和辭典	成光館版	三、〇〇〇
新式英和辭典	谷口績	九、〇〇〇
ベスト英和辭典	三木春雄	九、〇〇〇
農村自救論	權藤成卿	九、〇〇〇
畜産全講（家畜篇）	馬俊雄	三四、〇〇〇
四柱推命學	高木乘	一五、〇〇〇
人相の科學	櫻井大路	一五、〇〇〇
修整の實技	久米福衛	四、三〇〇
寫眞術初步	松山思水	三、〇〇〇
ヴアイオリン奏法	音樂世界社	七、〇〇〇
洋式建築構造雜形	篠原太郎	三四、三〇〇
綴方讀本	鈴木三重吉	一四、四〇〇
最新科學畫輯（植物之卷）		五、〇〇〇
同（地球之卷）		五、〇〇〇
同（電氣之卷）		五、〇〇〇
同（人類之卷）		五、〇〇〇
同（動物の卷）		五、〇〇〇
全動物圖鑑	日本動物研究會	五、〇〇〇
全植物圖鑑	日本博物研究會	一〇、〇〇〇
疑問の解決書	鳥居龍藏	六、〇〇〇
遼の文化を探る	鳥居龍藏	八、〇〇〇
ペンキ塗と吹付法	鏑木裕之	七、〇〇〇
夫婦間の貞操讀本	島津嘉孝	一〇、八〇〇

御注文は總て前金にて御願ひ致します。御送金はレヂストラード、コンヴアロール便が一番安全で且便利です。送料は十ミル迄七百レース、十ミルより二十ミル迄一ミル、二十ミルより三十ミル迄一ミル。それ以上は前記計算を繰返します。品切れの節の豫備に二、三書名御記入願ひます。御名前、御住所は和、葡兩文にてハツキリと御書き下さい。

聖市 遠藤書店
T. YENDO
Caixa Postal 2878 - S. Paulo

時局柄

献上品の包裝・表裝に關し 宮内省から在伯同胞へお達し

母國政府では物資總動員計畫の下にガソリン、鐵、金、銅更に皮革と釣瓶打ちに重要物資の使用制限を斷行し上下一致して長期戰に對應することとなつたが、今回献上品の色裝、表裝等に關し昨日宮内省より外務省を通じ在留同胞のため左の如く通牒あつた

昭和六年十二月夫々通牒致したが未だその趣旨の徹底を缺くもの尠からず、就いては時局柄殊に諸費節約のため金箔、皮革、織布等による表裝、桐箱、絹布等をもつてする包裝その他特殊の體裁を施す事を差控へることと致度、この際一層右の趣旨を周知せしむる樣せられたし

雨降つて地固まる 全伯再制覇目指し ノ軍選手五十二名決定

過日チエロミツソン青年聯盟の提案を入れ遂に圓滿解決、全伯再制覇を目指して選手監督五十二名が九月早々出聖する事になつた

反則問題 解消

チエロミツソンチームは汎ノロエステ陸上競技聯盟へ三下り半を叩きつけ競技途中奮然席を蹴つて退場した事件あつたが全伯大會を目前に控へての事とて去る十五日汎ノロ陸聯幹事會を開催種々折衝の結果プで圖らずも反則問題惹起、プロミツソンチームは汎ノロエステ陸上競技聯盟へ三下り半を叩きつけ競技途中奮然席を蹴つて退場した事件あつたが全伯大會を目前に控へての事とて去る十五日汎ノロ陸聯幹事會を開催種々折衝の結果プロミツソン青年聯盟の提案を入れ遂に圓滿解決、全伯再制覇を目指して選手監督五十二名が九月早々出聖する事になつた

審判協會生る

汎ノロ陸上競技聯盟では人格的位を旨とし技術の養成に努めつゝ優秀なる技術者を作るために審判協會が生れた

皇軍慰問使に贈る 開拓祖人の一首 多羅間氏、元氣に出發

廿万在留同胞の銃後熱誠を戰線で活躍してゐる皇軍將兵に傳へ、在留民赤心の發露たる慰問袋を傳達するために歸朝する多羅間皇軍慰問使は昨廿日午前八時多數在留民に見送られてルス驛發下機したが、我が開拓の祖人水野龍翁は左の一首を餞別として多羅間氏へ送つた

武士を訪ひ慰めん旅とへは
別れ惜しともいはれさりけん

なほ木村主石翁なき後の聖市三水會を牛耳る中野陽水並に俳句入門一年生坂本鎖臺は夫々左の一句を送つた

日本軍慰問使發つや風薫る　中野陽水

親日パードレも出動！ 碧空の下 豆選手陸上競技會 リンス地方少年陸上競技會

教育普及會が第二世兒童の體位向上を目指して毎年擧行することゝなつた少年陸上大會のうちリンス地方大會は同地支部主催の下に去る十四日リンス市ジナジオ・デ・ペゼサーノ運動場で華々しく開かれた、母校の名譽を双肩に擔つたリンス、ブロミツソン、カフエランジヤ、グワヰサーラの四區代表豆選手達は快よい微風がそよぐ青空の下潑溂と入場、東天を拜し偉大なる祖國に默禱を捧げた後午前八時三十分よりB組男子百メートルラツク優勝間崎盃、A組優勝今田盃、フイルド優勝宮山盃はことごとくリンス軍の手に輝いた、記錄も良好で特に異彩を放つたのは リ軍堀内君の走高跳一米四三・五、ブ軍走巾跳森本君の五米二〇であつたなほ親日パードレとして知られてゐるジナヂオ・ジオゼザーノ教頭のムーネス先生は十六ミリ撮影機を持つて山口リンス學園長と共に一生懸命、邦人第二世達の活躍振りをフイルムに收めてゐたが、右フイルムを教育會に寄附する事になり、リンス支部では記念として保存する事となつた、當日の競技記錄は上巻版運動欄で詳報するが得點は左の通り

總得點

リンス	一二〇	
ブロミツソン	一〇一	
カフエランヂヤ	八三	
グアイサラ	七〇	
△男子		
リンス	六六	
ブロミツソン	六六	
グアイサラ	四七	
カフエランヂヤ	四二	
△女子		
リンス	五四	
グアイサラ	三六	
ブロミツソン	三五	
カフエランヂヤ	二八	
A組(男女)		
リンス	四八	
グアイサラ	四七	
ブロミツソン	四四	
カフエランヂヤ	三一	
B組(男女)		
リンス	七二	
ブロミツソン	五七	
カフエランジヤ	三九	
グワイサラ	三五	
△トラツク		
リンス	五七	
ブロミツソン	四二	
グアイサラ	四二	
カフエランジヤ	二九	
△フイルド		
リンス	六三	
ブロミツソン	五九	
グアイサラ	四一	
カフエランジヤ	四一	

【十六ミル撮影機持つて活躍する親日パードレ、ヂナジオ・ジヨセザーノ教頭】

陸の若人の進軍を待つ パウリスターノ競技場

いよ〳〵來る九月六、七日に華々しき若人らの陸の大爭覇戰——第七回全伯邦人陸上競技會が開かれるが、本年度會場に當てられた聖市パウリスターノ競技場では既に準備もO・K、晴れの日を待つて居る（寫眞は競技場の一部）

本社援後社

戰線よりの第一聲 多賀從軍記者の講演とシネマの會 聖市は卅日夜七時半から

東洋永遠の平和を望んで抗日排日を支那の徹底的覺滅と支那赤化防止のため敢然立つた「正義日本」の立場は、事變當初色々在伯同胞とも馴染深いウニベルサル建築會社々長アルフレツド・アロヘ、支配人フランシスコ・アランベルト、秘書エドムンド・A・アルブレツヒ、日本人部主任水本光秋等の奮戰に感激した外人達の相次ぐ國防獻金に母國陸海軍省を感泣させてゐるといふ、聖市でも既報伯人娘エデイツテさんの獻金を始め既に十數件に上り今次事變に對する伯人間の正しき認識は日を追つて深まりつゝある時、又獻金として總領事館に差出し館員一同を感激させてゐる

攀支膺懲の聖戰すでに一ケ年、蔣政權が運命を賭す淡口目がけ皇軍はいまや果敢の大追擊戰に移りつゝあるが、北支戰線から轉じて世界戰史に輝く杭州灣の敵前上陸には企圖の從軍記者中、勇敢にもたゞ一人雨飛する敵彈の猛射をついて最前線を征く決死隊に加はり、將士とともに見事敵陣を突破、非戰鬪員としては眞に前後未曾有の快擧を決行して輝く榮譽をになひ、萬死に一生を得て上陸後は「泥濘とクリーク地帶」を一百三十里の死の難行軍を突破し敵首府南京の攻略戰に參加した岡山合同新聞特派從軍記者多賀安郎氏が在留同胞に皇軍の奮戰模樣を傳へるべく過般來伯したこと既報の通りであるが、同氏は本社後援の下に聖市をはじめ奥地を巡回講演會を開き持參の事變ニユース映畫五卷を上映、眼と耳から生々しき皇軍將士の奮鬪模樣を傳へることになり過般來右ニユース映畫の檢閲をリオで行つてゐたが、來週月曜日には完了、火曜日には當地へ着くのでいよ〳〵戰線よりの第一聲を在留同胞へ贈ることゝなつた

なほ現在決定せる場所及び期日は左の通り

▲ビネイロス　二十四日夜
▲コチヤ　二十五日夜
▲モヂ　二十六日夜
（青年會主催、聯日會後援）
▲聖市　三十日午後七時半より（サンパウロ劇場にて）

聖市が終了後本社員の案内で奥地に出發するが、開催地及び期日は追つて發表す

（岡山合同新聞特派從軍記者多賀安郎氏）

電話交換嬢から 一躍千萬長者へ これはまた豪勢な話

これは弗の國アメリカでの眞當の話、週給僅か十五弗の薄給電話交換嬢が二週間にして一躍千萬長者になり上り、流石この種の出來事には大して驚かぬヤンキー共も口喧ましく騷ぎ立てゝゐる

話の主人公はローリン・マクドナルドといふドツヂ自動車會社の電話交換嬢であつたが、彼女の持つ天來の美聲と美貌は或日のこと先代ドツヂ氏の死後社長の椅子に納まつてゐる未だ若い息子のダニエル・ドツヂ氏の眼に止まり以來この年若なる社長と美貌交換嬢とは切つても切れぬ仲となり、散歩も二人、シネマ、バイレは勿論二人といふ譯で遂に芽出度く今月の二日に華燭の典を擧げた、式後密月旅行は結婚保證人になつた友人を伴つてハーロン湖に行き船に乘つたり湖畔を散歩したりして甘い樂しい數日を過してゐたが、過る十五日のこと小舟の遊びも飽きて湖畔を散歩中ドツヂ君砂濱に金屬製の小箱を發見、「何だらう」と手に取つて見た、友人は「ダイナマイトのようなものだね」といふ言葉が終るか終らぬうちに大音響と共に小箱は爆發ドツヂ君は勿論友人もドツヂ新夫人も負傷して終つたドツヂの友人は比較的輕傷だつたゝめ新夫妻を小舟に擔ぎ込んで湖水を渡らうとしたところ途中ドツヂは傷の苦痛から狂的に暴れ出し湖水に自ら飛び込んで溺死して終つた、ドツヂ新夫人はその後手術の結果快方に向ひ良人の安否を氣遣つたが死亡の報を受けて愕然氣も狂ふばかりの悲歎に暮れた、だが彼女は夫が死んだために彼の遺言狀に從つてドツヂ家の財產は全部彼女の名儀となり、玆に彼女は未亡人となると同時に千萬長者となつて終つた

獨乙敢なく敗退 濠洲愈よ米に挑戰 デ杯インターゾーン決勝

【ブルツクリン二十日同盟】デ杯インター決勝濠洲對獨逸第二日は前日のシングルスに二對〇と濠洲リードの後を受け十九日ダブルス戰を擧行したが、獨逸軍の力闘も遂に及ばず敗退濠洲に三對〇と引き離して勝利を確保愈よ、前年のデ杯覇者米國に挑戰することゝなつた、濠洲シングルス二對〇、ダブルス一對〇

獨逸　濠洲
クイスト　ヘンケル
六—二　六—二
ブロムイツチ　メタクサ
六—四　六—四

麻州青年 五百ミル献金

教育普及會シネマ班がマ州に出張した際カンポグランデ青年會ではフイルムを借受けて去る十四、五兩夜ビスコンデ催したが、その收益金五百ミルを國防獻金として同地視察團に寄託、石井事務官へ寄託、石井事務長は去る廿日總領事館へ獻金手續をした

一九三四年以前の入國者 書類不備もお構ひなし

外國人の合法的居住に就審議する聯邦特別委員會は入移民制限は一九三四年以來のことであるためそれ以前に入國した外國人は合法的永住權あるものとの意見多く、大體原則として三四年前入國せる者は所定の書類不備の者、例へば旅行者の資格の者で許可期限を過ぎた者もこの恩典に浴せしめるものと見られる、從つてかゝる類の入國者は所定の手續きによつて請願すれば改めて永住權を獲得出來る譯である

流線型

◇…カンポスジョルドンに本部を置きアリアンサ、アレクリンの二ケ所に支部を持つ栗原研究所では來る一九四〇年由本博士が來伯するまでにその內容を充實す

唐土に武夫犒ふ皐月かな　坂本鎖台

◇…ポルトアレグレ來電によると十九日聖州發の郵便車に機關車の火ノ粉が飛び込んで火災を起し、郵便物はみんな燒けて仕舞つたと今年に入つて郵便車の火事は三回目、これでは安心して手紙も出せない

◇…來る十五日から行はれる獨乙の秋季大演習は百万の兵隊を動員し一日七百万馬克を費すとは安いもんだ

◇…衞字農業雜誌シチオスイ・ファゼンダの第八號が發刊された、同誌には農業畜產に關する有益な記事が豐富に滿載されてゐる、執筆者は斯界の權威を網羅してゐる

◇…バストス移住地では母國非常時の折柄結婚披露は左の一、披露宴は會費の範圍內とし祝儀は會費だけとする一、祝儀返しは絕對にせないこと

一、披露會は月下氷人が主催する、一、月下氷人は會費を募る義務を有し最少限度の會費支出を乞ふこと、

るため運命の努力を拂つてゐるが、今度海興官腰支店長の肝入りで北パラナのピリアニツト同氏排地內へ支部を新設することゝなつた

◇…ポルトアレグレ來電によると十九日聖州發の郵便車に機關車の火ノ粉が飛び込んで火災を起し、郵便物

東山銀行
本店　サントス
支店　サンパウロ　リンス

貸部屋
日本人丈に貸し度し、一部屋に三人、食事賄度
R. Maestro Cardim, 1077
（日伯新聞社隣）

かまぼこ
聖市トーマス・デ・リーマ街二八三　郵函三六八
惠比須屋

社告
奥セントラル線　聖市郊外　金子佳英
奥セントラル線　聖市郊外　田中行雄
マリリア、ソロ、アラサツーバ線　安藤國雄
ノロエステ線　伊藤二郎
セントラル線　小畑秀雄　小畑幸操　清地
右各出張員を出張致させて居ります、諸賢の御配慮を願上ます
日伯社營業部

歩合作募集
一、米・棉作に適地
二、面積十アルケーレス
三、面談の上好條件を提供す
四、位置　オリエンテ驛より七キロの地點
五、交通　乘合自動車の便あり
右至急募集します
パ延長線オリエンテ驛サンタ・マリア植民地
日野惟恒

分讓
薄荷苗　栗苗
葡萄苗　柿苗
蜜柑苗　梨苗
ウド苗　蕗苗
農家の副業として最も有利なる右記の苗を分讓す
苗木に制限あり至急申込まれ度し
聖市　耕農園
R. Pedroso de Moraes, 791
Caixa Postal, 3952
Alto-Pinheiros, S. Paulo

尋人
福岡縣嘉穗郡桂川町　大塚護
熊本縣人　永塘進
高知縣尾川村　西森猪佐美
同　西森熊之助
同　連池村　田鍋馬次
同　中筋村　上岡熊吉
同　岡林末吉
同　岡添儀之助
右の者現住所承知致度きに付本人又は御存知の向は當館迄御一報相煩度し
昭和十三年八月十九日
在サンパウロ　帝國總領事館

ブラジルの法律辭典！
第四輯　付註釋ブラジル刑法（全）　蒲鞠約寫眞　三段組百十葉入　定價十ミル（送料五百レース）
本書は「刑法」に關する規定を網羅し、懇切なる註釋を施してあるから、一讀何人も刑事問題の何たるやを容易に會得し得る。暗黑面の探訪記は本書の附錄を飾るもの。多數の新法令も入れてあるから再讀以て現下非常時に善處せらるゝが賢明である
第五輯　付註釋ブラジル民法（全）　菊判三段組百九十頁　定價二十五ミル（送料一ミル）
豫約募集　最も廣汎且つ重要なる「民法」を全譯し適確なる註釋を附けた本叢書中の最高峰……「新法令集」に新規定を解說し其手續樣式を揭げたり
豫約締切（八月末日）豫約二十ミル
第二輯　ブラジル法律早わかり　特價十ミル
第三輯　ブラジル新憲法　定價三ミル
共送料送金はコンバロール、バレボスタール、銀行小切手で
發行所　ブラジル法制研究所
聖市サン・ジョアキン四四七（大正小學校下）
Hizo Suzuki - C. Postal, 3123 - S. Paulo

歸國御挨拶
各位益々御清祥奉大賀候
小生儀在伯中は各別の御厚情に預り居り候處今般家事の都合に依り歸國致事と相成り過日錦地出發に當り御多忙中御折柄盛大なる御見送を忝ふし御厚情の段萬謝奉上候以御挨樣途中無事廿日サントス港出帆一路歸國の途につき申候出發に當り在伯中の御厚情を謝し各位の御清福を祈上候
昭和十三年八月十九日　元イツヴエラーバ驛在住
各位　簑田數男

歸國御挨拶
謹啓各位益々御清祥奉賀候
陳者今般家事の都合上家族同伴廿日りお丸に乘船歸國仕り候在伯中に一方ならぬ御厚情に預り居り候處今般家事の都合に依り歸國致事と相成り過日錦地出發に當り御多忙中御見送被下且つ多大なる御餞別を忝ふし御厚情の段萬謝奉上候尙植民會より立派なる感謝狀を戴き深く感謝奉上候先は諸氏の御健康と御發展を祈り乍略儀紙上を以て御挨拶申上度如斯御座候
昭和十三年八月二十日　マリリア驛前農園植民地
諸彦　杉本正則　家族一同

女中さん入用
聖市蔬菜メルカード內バラツカ四番
仲買商　加古淺三

Yokota
横田洋服店
聖市コンデ・デ・サルゼーダス街四七
電話二—九九四八

尋人
熊本縣鹿本郡（昭和拾年度航）
古閑秋彦
右者御存じの御方は御手數ながら本人若しくは左記宛御一報被下度御願ひ申上候
パウリスタ線バレツトス驛イタンベー町
兄　古閑慶吾
郵函十六

NIPPAK SHIMBUN

Diario Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXIII — São Paulo — Domingo, 21 de Agosto de 1938 — Num. 1.487

O incidente de Chankufeng foi para Chang uma esperança que trouxe uma grande desillusão

Commentario do "Tokio Asahi"

Tokio, 15 - Domei — Na sua edição de hoje, o "Tokio Asahi" na sua pagina de notas estrangeiras inseriu o seguinte commentario:

"Declarada a cessação da luta nippo-sovietica, o problema a ser tratado agora é o da organização da commissão de demarcação dos limites. Baseando-se no conteudo da terceira conferencia Shiguemitsu-Litvinoff, vemos que ha ainda alguns pontos discordantes entre os dois representantes, com referencia ao referido problema. A proposta da U. R. S. S. no sentido de incluir um terceiro como membro da commissão já vem de ha tempo; mas assim como em 1936, na occasião do incidente da Mandchuria, os representantes mandchús repelliram a proposta sovietica, o Japão agora, de forma alguma admittirá a proposta sovietica da inclusão de um estranho. Quanto á igualdade numerica dos representantes na commissão, do lado sovietico e nippo-mandchú, o nosso representante em Moscow concordou. O commissario do Povo, sr. Litvinoff propoz para a organização da commissão dois sovieticos e dois nippo-mandchús.

Julgamos que a commissão será mais ou menos isto no fim das contas. Quanto ás provas a serem examinadas na demarcação, a U. R. S. S. parece estar propondo quasi que sómente o mappa traçado no accordo nippo-chinez, mas deve-se admittir que ha outras de grande efficiencia. Não ha de negar que ha diversos mappas em que se destaca a irregularidade dos limites em questão e esses deverão tambem servir de orientação. Deve-se tambem levar em consideração a historia local e mesmo o accordo bastas vezes referido pelo sr. Litvinoff não pode ser interpretado a livre vontade dos representantes russos.

Emfim, a conferencia Shiguemitsu-Litvinoff continuará tratando esses varios problemas que são de grande importancia para as duas nações.

Quem recebeu o maior abalo pelo armisticio nippo-sovietico foi Chang-Kai-Chek. Os dirigentes militares de Hankow, dizendo ser o incidente de Changkufeng uma providencia divina estavam realmente esperançosos, mas poucos foram esses dias.

Perante a espectativa de grandes lutas que deve sustentar com o Japão, a China não pode deixar de confiar no auxilio sovietico. Consta que os chinezes estão demonstrando attitudes deveras covardes, pedindo á U. R. S. S. que continue com incidentes semelhantes ao de Changkufeng, para assim enfraquecer as tropas imperiaes".

A creação do centro cultural nippo-chinez

Pekim, 16 — Domei — Visando a approximação cultural nippo-chineza, será fundado em breve em Pekim, um centro cultural nippo-chinez.

Para realizar os trabalhos preparatorios para a fundação desse importante instituto scientifico, deverá chegar a esta cidade, no dia 26, um comité formado das mais altas intellecinalidades do Japão.

Tambem os circulos representativos chinezes não se mostraram indifferentes. No dia 15 do corrente, o governo provisorio chinez realizou uma reunião, tendo nomeado uma commissão para receber a comitiva japoneza e cooperar na organização desse importante centro cultural de approximação scientifica.

Segundo consta de noticias de fonte fidedigna, a inauguração desse centro em questão dar-se-á com grandes solennidades no dia 29 do corrente, na presença de autoridades civis e militares de ambos os paizes.

O novo centro a ser fundado comportará as seguintes secções: Litteratura, Arte, Philosophia, Agronomia, Physica, Chimica e Historia Natural.

O alcance do triplice accordo commercial nippo-mandchú-italiano

Tokio, Jul. — O objectivo immediato do novo accordo triplice commercial recentemente assignado entre o Japão, Mandchukuo, e Italia, é a exportação annual de 150 mil contos de réis de feijão soja procedente do "bloco" nippo-mandchú, emquanto que este receberá em troca machinas italianas de igual valor. Relativamente pequeno em volume, a transacção visada é, comtudo, bastante significativa em face da insignificancia do intercambio commercial entre o Japão e a Italia.

O commercio internacional entre o Japão e a Abyssinia vem augmentando de anno para anno. Antes de sua annexação á Italia, exportavamos áquella possessão 25.000 contos de réis annualmente. Actualmente, o nosso commercio exterior com a Italia e suas possessões se limita em 150.000 contos de réis por anno, cifra que será elevada com o desenvolvimento italiano na Abyssinia. Sob estrellas as mais felizes nasceu, portanto, o accordo que acaba de ser firmado.

A Italia foi o primeiro paiz europeu que reconheceu a independencia Mandchú. Ligada ao Japão pelos laços do pacto anti-communista, a Italia mantem comnosco as mais estreitas relações, tanto politicas como ideologicas.

O triplice accordo firmado a 5 deste mez representa, por conseguinte, a ultima etapa na consolidação das relações entre as tres nações signatarias. E' de se acreditar que elle teve origem no "eixo" politico anti-communista, visando a felicidade humana.

"Maior será a nossa força, quando maiores forem as difficuldades a vencer"

diz o general Itagaki

Barlim, 18 — Domei — Segundo informa um correspondente, em Tokio, do jornal "Voelkischer Beobachter", o general Itagaki, ministro da Guerra declarou que, o Japão conta como certa a quéda, para breve, de Hankow, e que, todavia, as operações continuarão até a destruição completa do governo nacionalisfa chinez, que collabora intimamente com o Komintern e que dirige a campanha anti-nipponica.

Nestas condições, continua o general Itagaki, se o merechal Chang-Kai-Chek pretende proseguir na guerra, mesmo após a quéda de Hankow, o Japão assim o fará para deter em definitivo a tenaz resistencia da China.

Mais adiante diz o titular da pasta de guerra do governo japonez: "O Japão considera como cousa inutil qualquer negociação diplomatica com o marechal chinez e que o povo nipponico supporta com absoluta naturalidade os encargos que a guerra lhe impõe".

A proposito, accrescenta o general: "Nosso povo acceita com tranquilidade e alegria todos os sacrificios e encargos, e é um facto historico no Imperio, que o nosso povo augmenta a sua força com o augmento das suas difficuldades. Assim pois, termina o declarante — maior será a nossa força, quando maiores forem as difficuldades a vencer".

Chang-Kai-Chek odiado pelos camponezes

As queixas de um lavrador chinez

Kiukiang, 16 - Domei — Ha cerca de um mez, o exercito chinez destruia, em dezenas de kilometros, os diques do Yang-Tzé, causando a inundação das regiões marginaes do grande rio.

Desde o rompimento dos diques do rio Amarello, a antipathia e o odio pelo governo Chang-Kai-Chek, entre a população chineza, especialmente dos agricultores, vem se intensificando dia a dia.

Ha alguns dias, ao sul de Kong-Ko, um pobre lavrador apresentou-se ás forças imperiaes, trazendo uma "carta ao sr. commandante das forças nipponicas".

O pobre homem denunciava na alludida carta a barbara acção das forças chinezas, condemnando-as em termos extremamente violentos. Em certo trecho dizia:

"As forças de Chang-Kai-Chek, destruiram com aguas lodosas, os verdes arrozaes que nós herdámos de nossos antepassados, collocando-nos numa situação cruciante de soffrimentos. O acto de Chang-Kai-Chek é o mais deshumano que se possa imaginar.

Nós, os agricultores chinezes, não podemos confiar mais nas nossas forças armadas. Desejamos ardentementes nos entregar á protecção do disciplinado exercito nipponico, ao qual pedimos o mais rapido anniquilamento das forças de Chang-Kai-Chek".

O queixoso mostrava seu odio incontido contra Chang-Kai-Chek, desejando libertar-se quanto antes da oppressão do governo nacionalista.

O embargo australiano ao minerio de ferro

Sua repercussão nos meios industriaes nipponicos

Tokio, Jun. — Teve larga repercussão, como aliás era esperada, a noticia do proximo embargo ao minerio de ferro decretado pelo governo australiano. A Federação Economica Nipponica esteve reunida recentemente, afim de deliberar sobre a attitude a ser tomada em face da nova offensiva australiana, tendo resolvido representar perante o governo federal da Australia e as Camaras de commercio das principaes cidades daquelle continente, endereçando-lhes o telegramma assim concebido:

"A resolução governamental da Australia, embargando a exportação de minerio de ferro para o nosso paiz, representa um grave attentado aos nossos direitos adquiridos em minas daquelle continente. Quando estão, parallelamente, em vias de conclusão os tratados commerciaes de segunda phase e de navegação, uma attitude de tamanha deslealdade representa verdadeira barreira intransponivel no caminho para a solução de numerosos problemas que affectam de perto as relações entre os dois paizes. O povo nipponico espera que o governo australiano reconsidere o seu odioso acto, revogando o embargo decretado, no intuito de corresponder não sómente aos anceios nossos, como tambem ás opiniões correntes entre as clases directamente interessadas do proprio continente australiano, prejudicadas com a violenta medida".

Telegrammas de igual sentido serão tambem enviados pela Sociedade Nippo-Australiana e pela Camara de Commercio e Industria.

Primeira partida do carvão "Daido"

4.000 toneladas pelo "Kari Marú"

Tokio, Jun. — Foi com geral satisfacção é que aqui repercutiu a noticia da chegada da primeira partida do carvão de pedra produzida na mina de "Daido", partida esta que constou de 4.000 toneladas. A satisfacção dos meios industriaes foi ainda maior, quando se tem em vista a situação dos mercados abastecedores de carvão de pedra em nosso paiz, sempre impossibilitado de abastecer a contento as necessidades internas do paiz. O carvão "Daido" é um producto do norte da China, de superior qualidade, 1.000 calorias mais condensado do que o seu similar "Bujuh", extraido pela E. F. Mandchuriana.

A capacidade extractiva actual é de 2.600 toneladas diarias, promettendo fornecer durante este anno 1.000.000 de toneladas. Dessa quantidade, o Nippon receberá annualmente 350.000 toneladas. Devido ao custo do transporte, relativamente elevado, dada a distancia enorme que separa a mina dos nossos portos, o preço em vigôr é bastante desfavoravel em comparação aos similares de outras procedencias, cuja differença será, comtudo, compensada com as calorias condensadas que acabamos de mencionar.

Mobilização do Espirito Nacional do Japão

As medidas que as autoridades japonezas estão adoptando para fazer face ás necessidades decorrentes do prolongamento das operações militares na China têm feito resaltar problemas de toda ordem, tanto economicos como espirituaes que se entrelaçam, como attestaria, á falta de outros indices, a creação do recente ministerio do Bem Publico destinado a attender questões que dizem respeito, no Brasil, ás pastas da Educação e do Trabalho.

Reeducação da juventude

Numa época de emergencia como a actual, acreditam as autoridades japonezas serem necessarias providencias energicas no sentido de se manter, entre a população civil, um estado de espirito que corresponda ao ambiente do front. A 15 de Fevereiro ultimo, por exemplo, começou a semana de Mobilização do Espirito Nacional. Nesse dia foram presos sómente em Tokio, 7.373 jovens encontrados em centros de diversões, taes como, bilhares, salões de mahjong, casas de chá e cafés. Entre os presos havia 7.032 rapazes e 341 moças; 438 dos jovens foram punidos com varios dias de prisão, 3.036 ficaram detidos por um dia, 50 foram multados, 3.647 foram postos em liberdade depois de uma reprimenda, e 202, inclusive 2 moças, foram entregues ao Juizado de Menores.

Prohibidos os estudantes frequentarem cafés

Os estudantes no Japão estão prohibidos de frequentar os cafés typicos do paiz. As autoridades consideram que esses estabelecimentos exercem uma malefica influencia sobre o espirito do publico por serem em geral fechados. Segundo "The Japan Times" de 24 de fevereiro ultimo, a policia cogitaria de obrigar os cafés a installarem janellas transparentes sem cortinas e illuminar o interior profusamente, de maneira que tudo possa ser visto da rua. Cogitar-se-ia tambem de installar cafés com grandes vidraças sem cortinas em logar das paredes communs, o que redundaria num augmento da industria defabricação de vidros.

O problema dos dancings

Os dancings constituem outro problema que preoccupa actualmente as autoridades desse paiz. Muito se tem fallado ultimamente na necessidade de serem os mesmos fechados em virtude "da influencia que exercem na moralidade do publico".

O assumpto já mereceu interpellação na actual sessão de Dieta, onde foi discutida a situação das moças que trabalham como "taxi-gilrs" e cujo numero se ascende a mais de dez mil em todo o paiz. Um telegrama de Osaka, publicado pelo citado "Times" de 22 de fevereiro ultimo adeanta que "afim de se conformar tanto quanto possivel com os desejos manifestados pelas autoridades governamentaes empenhadas arrastar a actual situação de emergencia, o proprietario de uma escola de dansa em Amagasaki, nas proximidades desta cidade, obrigará todas as bailarinas a usar um uniforme feito de tecido misturado com "staple-fibre".

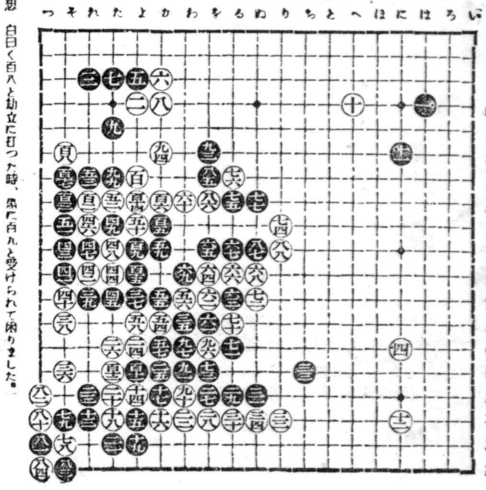
(Continua)

本社特選

(九其)

先番 丸山初段 — 橋本三段

(9) 黒白各一百八と初立に打つた時、黒に百九と受けられて困りました。
(10) 黒白く、百十九の一間飛び各をノ三)と二間に飛ぶ手は如何でしたらよいか。



NIPPAK SHIMBUN

PROPRIETARIO
SACK MIURA

DIRECTOR Masaaki Udihara — GERENTE Alfredo Takeuchi

Redacção — Administração e Officinas
Rua Maestro Cardim, 1109
Telephones: 7-3325 e 7-3326
Caixa Postal, 375
Endereço Telegraphico: "Nippak"
SUCCURSAL:
Rua Conde do Pinhal, 154
Telephone 2-3926
SÃO PAULO — Brasil

Assignaturas
PARA O BRASIL
Por anno ..... 30$000
Por semestre ..... 16$000
Numero avulso $500
PARA O EXTERIOR
Por anno ..... 100$000

Annuncios
Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços para annuncios nesta folha

賣住宅地

電車乘合自動車の通ずる最良住宅地長期賣出し開始、場所バイロ・デ・ビラ・マリアーナ、地權確實、御希望の御方には何時でも書類御見せ致します

御照會は Rua João Bricola, 10 - 6°. andar sala 623 a 631

御照會は日本文にても可

寶石商
カーザ・カストロ
總領事館、ブラジル拓植組合、海外興業會社、各地小學校并に運動團體より御買求めの榮を賜る

Dr. Zephirino do Amaral
MEDICO — OPERADOR
R. Quintino Bocayuva, 36 Phone 2-1602 S. Paulo
診察時間 午後二時より五時まで
聖市サンタカタリーナ病院 外科、内科、サンタクルーザ病院 内科部長、専門 泌尿器病 婦人病 一般外科手術
聖市ボカユーバ街三六 電話二—一六〇二

ドトール・ゼフイリイノ・デ・アマラル

Ao Esporte Nacional
Rua São Bento 256
Caixa Postal 2446
SÃO PAULO
運動具なら一切取揃へます。しかも安くて買い良い
エスポルテ・オ・シオナル
日本人社

急募植字
詳細面談左記へ
日伯新聞社

賣土地
日本病院の近く極上住宅地
御照會は日本文にても可
Caixa Postal, 3062
S. Paulo

かまぼこ
いよや
聖市コンデ・デ・サルゼーダス一七五

シチオ
モデルス・ダ・チヤクレス・ダ・ヤオ・ルス・ヤ・ルス・ヤ・ルス・ヤ